

NPO法人 自然と緑

NPO 法人自然と緑会報 2025 年 11 月 1 日発行第 145 号

特定非営利活動法人 自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-18

大阪市教育会館 5 階

TEL : 06-6809-1700 FAX : 06-6809-2702

E-mail : info-sm@shizen-midori.org

URL : <https://shizen-midori.org>



第 31 期自然大学 受講生応募受付が始まります

自然大学事務局長 牧野道夫

酷暑の夏が通り過ぎ、やっと普通の活動が出来るようになってまいりました。会員の皆様、元気にお過ごしでしょうか。

自然大学も節目の 30 回目になり、現在 30 周年の記念誌の発行に向け編纂をしている最中です。また、合わせて 30 周年記念シンポジウムの開催も予定しており、来年度の 7 月頃に開催をする目論見ですすめております。事務局は大変慌ただしい現状です。

本年度 30 期生受講生は既に 2/3 の講義を終え、3 月卒業に向け皆さん頑張っておられます。また、本年度は自然大学、ステップアップ生の修学旅行として 3 泊 4 日の沖縄研修の旅を予定しており、1 月下旬の実施に向け、こちらも準備を整えているところです。

そんな中 10 月に入りますと来年度の受講生の募集が始まりました。来期も 30 名の募集を予定しておりますが、昨今応募者が少なく大変苦労しているのが現状です。そこで会員の皆様にお願ひです。お知り合いで受講されそうな方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。また、公共施設等で募集チラシを置いてもらえる所があれば、すぐ事務局で対応致します。皆様のご協力よろしくお願ひします。

第31期自然大学講義日程表

日 程			内 容	担 当 教 授	日 程			内 容	担 当 教 授
1	2026年	4月5日(日)	開校式/ 地球環境と人間	渡辺弘之学長/ 松下幸司教授	8	2026年	8月2日(日)	野外実習説明②/ 土の生態学	鳥居厚志教授
2		4月12日(日)	野外実習説明①/ 森林の生態	伊東明教授	9		10月4日(日)	琵琶湖実習	琵琶湖博物館職員
3		4月18日(土)	長崎海岸実習	鍋島靖信教授	10		10月13~16日 間の平日	京大上賀茂 試験地	渡辺弘之学長
4		5月10日(日)	春日山原始林実習	前迫ゆり教授	11		11月8日(日)	馬ヶ瀬山実習	伊藤孝美理事長
5		5月31日(日)	金剛山実習	伊藤孝美理事長	12		12月6日(日)	森林動物、 熱帯非木材産物	渡辺弘之学長
6		6月21日(日)	水域生態系	遊磨正秀教授	13	2027年	1月17日(日)	山田池公園	佐々木泰彦講師
7		7月19日(日)	大気と気候	大藤明克教授	14		3月7日(日)	里山について/ 修了式/まとめ	渡辺弘之学長

—145号目次—

p 1	第 31 期自然大学の募集が始まりました	自然と緑事務局長 牧野道夫
p 2	自然と緑正会員の皆さまへお知らせ	自然と緑事務局
p 2	賛助会員の特典	自然と緑事務局
p 2	「寄付等の御礼」	自然と緑事務局
p 2	「これなんだろう・何故だろう」	自然と緑理事長 伊藤孝美
p 3~4	渡辺弘之の未解決事件簿 (27) 芦生のキベリタテハ	自然大学学長 渡辺弘之
p 5	さいとうさんの“話のタネ” (72) 伏条台杉	前自然と緑理事長 齊藤佑三
p 6~7	29期自然大学実習感想文「馬ヶ瀬山」	第29期自然大学受講生
p 8	「これなんだろう・何故だろう」の答	自然と緑理事長 伊藤孝美
p 8	活動報告／編集雑記	自然と緑会報編集部

自然と緑 正会員の皆様へお知らせ

昨今の事務所経費や事務所家賃等の値上げにより、経費面で事務所の運営が行き詰まっております。そのようなことから、今年6月の総会において会費の値上げを申請し受理されました。正会員の皆様には大変心苦しいのですが、次の通り2026年4月より会費の値上げを行いますのでご了承を宜しく御願い申し上げます。

・正会員の年会費 5,000円 ⇒ 6,000円

・賛助会員、家族会員は変更ありません。

NPO法人 自然と緑 事務局

賛助会員の特典

2025年度賛助会員(個人)募集の結果 ……自然と緑 事務局長 瀧原 勇

自然と緑の設立時から、各種団体を対象に賛助会員*を募集してきましたが、このたび、自然と緑の財政逼迫の折から個人の「賛助会員」を募集したところ、下記に示す26名の応募がありました。心から感謝を申し上げます。応募して頂いた賛助会費は、自然と緑の事業実施に有効に活用させていただきます。

自然と緑の理事会では、賛助会員になって頂いた方に対し、その特典を検討してまいりましたが、「自然大学の室内講義について無料受講」が出来ることを確定いたしました。(2025年度については2026年3月31日まで有効。来年度以降は入会日から翌年3月31日まで有効) 受講は希望する講義の一週間前までに事務所に「受講申し込み」を行い、受講日には「賛助会員証」を持参し、自然大学事務局に提出して頂くことになります。

来年度以降も「賛助会員」の募集は行う予定になっていますので、今後とも支援を宜しくお願い致します。

*2025年度に賛助会員(個人)になって頂いた方(敬称略)

宮本智志、米澤淳子、臼田篤子、角田 泉、山下明美、大東 弘、高尾恭子、竹村佳子、森 常緑、山口治、江尻忠雄、竹熊房代、中野佳則、瀧原 勇、伊藤孝美、中山久子、上田 豪、高田七重、関澤友規子、竹内一郎、飛澤好範、小島和江、神崎トモ子(合同会社 Feels)、他匿名3名

【寄付等の御礼】

いつもありがとうございます

<切手、ハガキ、現金など>

8/24 寄付 高田 七重 様

10/7 切手 石井 道子 様

ご寄付は下記までお願いします

ゆうちょ銀行口座名：
特定非営利活動法人 自然と緑

口座記号： 00900-7

口座番号： 150942

振込用紙の通信欄に

「寄付」と明記願います。



【これなんだろう・何故だろう】



モウソウチク
Phyllostachys edulis



ジャイアントトルニーバンブ
Bambusa bambos

左の写真は日本に生育する孟宗竹です。孟宗竹は左上の写真のように筍は離れて出て、竹稈はばらばらに出ます。

これに対して右写真のように熱帯の竹は株立ち状になって横に広がることはありません。何故でしょうか。

答えはP8をご覧ください

日本の国蝶はオオムラサキ

日本の国蝶はオオムラサキであるが、誰が決めたのか？、国会での決議ではない。1957年に日本昆虫学会が決めたものだ。確かに大きく、きれいだ。とくにオスは光沢のある青藍色の翅^{はね}をもっている。メスはもう一回り大きい、色は光沢のない茶紫色である。どれがきれいかの判断は人によって大きくちがう。きれいなものなら、ギフチョウ、クジャクチョウ、オオゴマダラなども人気だろう。小さくてきれいなものならミドリシジミ類だが、ちょっと小さすぎる。オオムラサキは75円切手にもなっていてすでに認知度も高い。私もオオムラサキの国蝶指定に特に異存はない。



オオムラサキ（京都）

オオムラサキの食樹は里山にあったエノキやエゾエノキで、成虫は同時にあったクヌギなどの樹液を吸った。沖縄を除く全国に分布し、それも里山にいる身近な存在であった。しかし、その里山は放置され、エノキやクヌギが少なくなった。どこでもオオムラサキが少なくなっている。里山の静かな変化が理由である。私も冬、エノキのまわりに貯まっている落ち葉をひっくり返し、越冬しているオオムラサキの幼虫を探した。ほとんどはよく似たゴマダラチョウの幼虫であったが、少ないながらオオムラサキの幼虫もいた。芽吹いたエノキの葉を採ってきて飼育したのだが、いつまでたってもチョウがでてこない。よく見ると蛹に小さな穴が開いている。寄生蜂が寄生していたのだ。ゴマダラチョウの羽化には立ち会ったが、オオムラサキの羽化・誕生には立ち会えなかった。

きれいな蝶 キベリタテハ

きれいなチョウの一つ、キベリタテハ (*Nymphalis antiopa abopos*) は名前の通り翅の縁が黄色でその内側に水色の斑紋が一行に並ぶタテハチョウ、日本での分布は北海道から本州中部以北の山岳地である。特徴のあるチョウで、他のチョウと間違えることはない。南限は蝶類図鑑では伊吹山・加賀白山とされているものだ。このチョウは北半球の温帯から寒帯、すなわちヨーロッパからシベリア、北アメリカからメキシコまで広く分布するとされている。



キベリタテハ（尾瀬ヶ原）

このキベリタテハが1973年10月3日、よく晴れた日、芦生研究林（京都府南丹市美山町）の当時まだあった長治谷作業所（小屋）の入り口の太い柱に止まっていた。翅を水平に広げたかと思うと一瞬に垂直に閉じた。裏面はほぼまっ黒であった。特徴あるチョウ、まちがいにキベリタテハであった。



キベリタテハ（片品村大清水）

こんなものが芦生にいた。証拠がないと、誰にも信じてもらえない。しかし、捕虫網など持っていない。頭に巻いていた手拭いで捕ろうとしたが、あっという間に逃げられた。この時の光景は今でもしっかり眼底に焼き付いている。私がキベリタテハを実際に見たのは、その後のことだが、信州・志賀高原と美ヶ原、そして尾瀬ヶ原である。尾瀬ヶ原では見晴しの長蔵小屋の日の当たる外壁に止まって翅を開いたり閉じたりしていたが、残雪の残るミズバショウの開花時期のこと、これは越冬個体だったはずだ。

隣接の滋賀県朽木村で採集されている

芦生でキベリタテハを見た当時、京大農学部で学生で蝶類研究会（蝶研）に所属していた緒方政次さんが趣味で芦生のチョウの調査に来ていて、送り迎えなど面倒を見ていた。調査を始めたのは雪解け後だったので、早春のギフチョウなどは採集されていない。成果を『緑蝶』第3号（1976）に「芦生の蝶」として採集した75種を報告した。この中で、渡辺が「キベリタテハを見たといっている」と半信半疑で書いてくれている。

虫のことがわかる方にキベリタテハを芦生でみたという話をしていたら、信州出身で芦生研究林に勤務されていた安藤信さんから1980年代に見たことがあると聞いた。セミの調査を続けられている今井博之さんからは、より明確に2004年7月、ケヤキ峠からブナノキ峠への登り口付近で確実に見たと聞いた。台風通過後、奄美・沖縄などにいるいわゆる南方系のチョウが本土で見つかることがある。これを迷蝶というが、キベリタテハも偶然、北風で運ばれてきたのかも知れないが、私にはやはり研究林内で発生していると思う。



翅を閉じたキベリタテハ

分布の南限、伊吹山のチョウのことを知りたくて、滋賀県チョウ類分布研究会（編）『滋賀県のチョウ類の分布』（琵琶湖博物館研究調査報告27, 2011）をみると、1956年8月、伊吹山とある。ここでの記録も極めて少ないものだと知った。ところがそこに、1997年4月26日、芦生と隣接する高島市朽木村遠敷谷と能家でオス各1個体が採集されている。「定着していない」としている。『蝶研フィールド』通巻143号（1998）には、この標本写真も掲載されている。

京都側でも、もっと有力な情報を得た。1976年4月17日、佐々里峠の広河原寄り（京都市左京区）で手塚浩さんが目撃されていることを知った。このキベリタテハは成虫越冬である。滋賀県朽木村で採集されたのは4月だから、これも越冬個体、翅は傷んでいたはずである。しかし、私が見たものは10月、翅は傷んでいない。新成虫は8、9月に現れるとされるので、私が見たものは秋、まちがいなく新鮮な個体だったのだろう。

食餌植物のシラカバは芦生にもある

このキベリタテハは花を訪れて吸蜜はしない。樹液を吸ったり、獣糞に來たりするだけのようだ。幼虫の食草（食餌植物）はカバノキ科のダケカンバ、シラカバ、ウダイカンバ、ヤナギ科のドロノキ、オオバヤナギなどとされている。

これらは芦生には自生しないが、シラカバは研究林事務所横に今も大きなものがあるし、かつて長治谷作業所近くにも植えたものがあった。また、扇谷は入り口付近はドイツトウヒ林であるが、この谷の奥には外国産樹種を含めいろんな樹種が植栽されていた。シラカバも植えられていた。また、朽木村には別荘があちこちに作られたが、そこにシラカバを植えるのもその当時の流行であった。シラカバにはカミキリムシが穿孔するなどで、どこも長くはもたなかったようだ。食餌植物のシラカバはあったということだ。

私がキベリタテハを見てからもう52年が過ぎている。朽木村で採集されていること、研究林内でも目撃例があることから、私のまったくの見誤りではないと改めて主張する。どなたか採集し、その存在を確かめて欲しい、さらにはその発生場所を突き止めて欲しい。私の未解決事件の解決をどなたかにお願いすることになった。



シラカバ林（尾瀬沼）

さいとうさんの“話のタネ” (72) 伏条台杉

前自然と緑理事長 齊藤 侑三



作業道横の伏条台杉



最大の伏条台杉

た。平安京は延暦13年(794)に遷都、今から約1230年前になる。

都を造るために柱になる大きな杉(小さくて80年生くらいか?)を伐り出している。変形樹形で柱にならないと残されたとなると樹齢約1300年以上経っている。風雪にいじめられて枝や幹を折られ、柱や板に使いにくい「役立たず」の木だった。幹回り15.2mの「平安杉」、樹高32mの「谷守杉」など固有名が付いている木もあるが、合計250



猿沢池の春日杉

2025年5月全国森林インストラクター協会の取り組みで、京都花脊の「伏条台杉」の観察会があった。

35年前、屋久島の縄文杉を見に行った。海拔1,300mの地に、樹高24.7m、幹周り16.1mの縄文杉、台風がよく通るので樹高は低い。幹の中心に大きな空洞があり伐り残されてきた。

このときスギについて調べ、京都に樹高20m、幹周り15.2mという縄文杉に匹敵する杉の巨木「伏条台杉」がある事が分かった。伏条台杉は雪や風で押さえつけられたり折れたりした幹や枝が不規則に出たもの。私有地で許可を得ないと駄目と出ていたので諦めていた。今回の企画は35年来の望みが叶えられるとすぐに申し込んだ。

京都森林インストラクター会が入林許可をもらい、マイカーに分乗して行く。広域基幹林道分岐点から作業道に入ると、木を引き抜いて逆さまに土に差し込んだような杉の異様な巨木があった。「これが伏条台杉と説明すると十分納得してもらえるかも」と言われた。珍しい樹木には名前がついているが、この杉には固有名がついていないようだ。作業道横から急な尾根筋を登っていく。井之口山の尾根の上にあると思っていたが、9合目あたりから柵に沿って降りていく。中腹にある三等三角点を通過して、かなり下がった所に伏条台杉の群生地があった。出版物には推定樹齢約800年と書いてあるが約1000年は経っているだろうと説明があった。

この地域は長岡京(784年)や平安京の造営や火災で炎上した御所の再建で建築用材が供給され

た。平安京は延暦13年(794)に遷都、今から約1230年前になる。

都を造るために柱になる大きな杉(小さくて80年生くらいか?)を伐り出している。変形樹形で柱にならないと残されたとなると樹齢約1300年以上経っている。風雪にいじめられて枝や幹を折られ、柱や板に使いにくい「役立たず」の木だった。幹回り15.2mの「平安杉」、樹高32mの「谷守杉」など固有名が付いている木もあるが、合計250

本以上の巨大杉群だ。

自大学で野外学習に行く奈良の春日山原始林に「春日杉」といわれる巨木がある、これは幹に直径2~4

cmの穴がたくさん空いて「レンコン腐れ」といわれる。春日山の杉はほとんどの杉が「レンコン腐れ」になっており、材として使われないので巨木になっている。(『さいとうさんの自然観察の話の種1』53頁参照) 用材として使えない。猿沢池に浮かべられ、カメのひなたぼっこ用に使われている。猿沢池の南東に水琴窟があり説明文を貼ってある衝立がレンコン腐れの杉を活用していた。

また、室生寺で平成10年9月22日の台風7号で樹齢約150年大杉が倒れ、樹高約12mの部分を衝立に仕上げてあった。このように用材として「駄目な木、使い物にならない木」でも長生きをすると、別の用途があり、「他に類を見ない木」として珍重される。

時代や物の見方が変わると「貴重な財産」になるとしみじみ思った。



縄文杉



室生寺のレンコン腐れの衝立

（※赤色は質問、黒色太字は回答あるいはコメント）

《1班》

○今回、早めに家を出たのですが、JR で車両事故があったらしく湖西線のダイヤが大幅に乱れ、予定の新快速が取り消しになるなど京都駅で右往左往。約 30 分の遅れでしたが、北小松駅に着いただけで一仕事終わったという感じになりました。小屋に着いてヘルメットを受け取り適当に被っていたら、スタッフより「きちんと被らないと危険」と注意を受け、サイズや顎紐を調節していただきました。間伐地へ向かう途中、足元ばかり見ていて、道に被さるように伸びていた木に気づかず、思いっきりおでこをぶつけてクラッとなりましたが、怪我をしなかったのは、ヘルメットを正しく調節していただいたお陰だと思います。間伐地では最初にスタッフや班リーダーの方がデモンストレーションをされた後、各班で間伐を行いました。木の傾き、倒す方向、ロープのかけ方などスタッフやリーダー・班員で安全を確認しながら実施しました。木の切り方では、受け口や追い口の深さや角度が難しかったのですが、交代で引いた鋸が思っていたよりよく切れ、割とスムーズに倒すことができました。玉伐りや枝払いでは、立つ位置や枝を持つ手の位置などつい安全を疎かにしがちで、そのたびに注意を受けるという結果になりました。間伐地は斜面にあり、杉の枝や葉が落ちていて足を置く場所を誤ると、捻挫しそうで怖かったです。今回の実習では、スタッフやリーダーの方など経験者が沢山いて、事前に安全性を説いたり現場で目を配ったりされていたので、事故もなく終えることができましたが、これを生業にされている方の作業の危険性や報酬のことを考えると、日本の林業



馬ヶ瀬山実習渡辺先生講義



伊藤理事長講義

の将来が不安になりました。令和 6 年度から新設された森林環境税ですが、森林の保全管理に生かされるのでしょうか。

【回答】(1. 2は林野庁のホームページから)

1 森林環境税及び森林環境譲与税の趣旨

森林の有する公益的機能は、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や水源の涵養等、国民に広く恩恵を与えるものであり、適切な森林の整備等を進めていくことは、我が国の国土や国民の生命を守ることにつながる一方で、所有者や境界が分からない森林の増加、担い手の不足等が大きな課題となっています。

このような現状の下、平成 30(2018)年 5 月に成立した森林経営管理法を踏まえ、パリ協定の枠組みの下における我が国の温

室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、平成 31(2019)年 3 月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設されました。

2 森林環境税及び森林環境譲与税の仕組み

「森林環境税」は、令和 6(2024)年度から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として 1 人年額 1,000 円を市町村が賦課徴収するものです。また、「森林環境譲与税」は、市町村による森林整備の財源として、令和元(2019)年度から、市町村と都道府県に対して、私有林人工林面積、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按分して譲与されています。森林環境譲与税は、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づき、市町村においては、間伐等の「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」に充てることとされています。また、都道府県においては「森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用」に充てることとされています。

3 森林環境税の自然と緑の取り組み

森林環境税は市町村単位での取り組みとなりますので、現在NP



ロープの括り方実習



滑車で安全な方向に引っ張る

○法人自然と緑では奈良県の斑鳩町で行っている『斑鳩町里山整備』が該当し、月1回の里山整備により森林環境税からなる補助金を(金額はそれほど多くありませんが)受領しています。

《2班》

○子供の頃、村にはまだ山田があり稲を作っていました。やがてそこに杉を植林し、何年か前70本近い杉を伐り出し、その純益を50戸の各家に等分に配分されました。その後は放置、竹やつる植物が生い茂っています。今日の実習で間伐の大切さと共に、重労働であることも体験しました。以前尾鷲の速水林業の桧林を見学したとき、林床はコナラ・クヌギ・シロバイ・ヒサカキ・コガクウツギ・ヤブデマリといった小かん木で覆われていました。人件費節約と自然の力で土を養う、という話を聞きました。今日の実習で

ふと思い出しました。何よりセンブリの可愛い花に出会えて疲れも吹っ飛びました。ありがとうございました。杉林の林床に何も無いのは鹿の害もあるのでしょうか？

【回答】三通り考えられます。一つはスギ林が混んでいたために、林内に光があまり入らず、下層植生が生育出来なかったためです。二つ目は仰るようにニホンジカが食べてしまった場合が考えられます。三つ目は土壌が乾燥していて下層植生が生えにくいことが考えられます。しかし、馬ヶ瀬山の場合は、上の三通りの要因が絡み合っているものと考えられます。(伊藤記)

○馬ヶ瀬の間伐実習は、全く初めての経験で右往左往でしたが、忘れられない体験になりました。また「NPO法人自然と緑」が滋賀県森林管理者との契約で毎月、下刈り、除・間伐、産業道の整備など、保全整備・管理の実務を担っておられることに、失礼ながら感心いたしました。今まで講義ベースで、実習がある意味、座学のフィールド版と認識しておりましたが、実保全に携わっておられることに関心いたしました。スケジュールの残り少なくなりましたが引き続きよろしくお願いいたします。

《3班》

○伊藤理事長の現地の講義をまず受けました。「植物体が作られるには、光合成が必要で、そのためには炭酸ガスと水と太陽エネルギーが必要である。光合成の過程で「糖類が作られ、それがつながり砂糖となり、でんぷんになり、セルロースである木材が形成される」。スギやヒノキが成育していくために、日照不足や光合成を妨げることを防ぐために、下刈りや間伐がおこなわれる。間伐や下刈りをしなければスギやヒノキの林は荒廃していく。逆にスギやヒノキの林が成育し、保全されれば水源涵養がなされ、琵琶湖の水もきれいになる。」以上、間伐の有用性について学びましたが、実際の間伐実習をすると、木を切ることさえままならない状態でした。ちゃんと間伐をやったかったら、月1回の森林整備に来なさいということなのだろう、と思いました。その後、「鉄塔」のある山上まで行き見た琵琶湖は、今まで見てきた琵琶湖とは少し違って見えました。

○JRの遅れで伊藤先生の話が短縮されたので、後日資料を読み込みました。間伐、下刈り等の活動の重要性を理解できました。この活動が、琵琶湖の水資源の保全となり、ひいては下流域に住む私たちの生活を支えているのだと感じました。杉の伐採は思った以上に大変な作業に感じました。特に我が三班は、傾斜地の伐倒が思いもよらない方向となり、伐採の困難さを身をもって体験することとなりました。余談ですが先日、天理市の石上神宮に行った際、境内の鏡池に天然記念物ワタカが棲息しており、水草を食するとの看板がありました。3日の琵琶湖研修において滋賀県が琵琶湖の水草対策としてワタカを放流しているとの記述があったのを思い出しました。



倒した木を玉伐る



受口を伐って追口を伐り始める

以上

【2ページの答】



孟宗竹の筍(単軸型)



中間型(ホテイチク)



ゾウタケの筍(連軸型)

日本(温帯)の竹は地下に長く伸びた地下茎の各節から1個(本)ずつタケノコが出ます(単軸型)ので、生育した竹稈は接することはありません。しかし、熱帯の竹は立っている親竹の根元の下部の短い地下茎の節からタケノコが出ます(連軸型)ので、生育した竹稈は親竹にくっつくようになりますので、株立ち状になって広範囲に広がることはありません。

それでは何故そうだったのでしょうか。多分、熱帯の竹が何万年前の間氷期に熱帯から北に生育範囲を広げたのが、氷河期に入って寒い地域では冬に出た筍は寒さのため枯れてしまうので、冬に出た筍は地中に潜り、地下茎となって伸長し、その節の芽(芽子)が春になって筍となって成長するようになったのではないのでしょうか。

自然と緑の活動報告 2025年7月~2025年9月

◇7/27(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「炭焼活動」	… 3人
◇8/21(木)	8月期理事会	… 16人
◇8/24(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「定例間伐」	… 32人
◇8/24(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「炭焼活動」	… 18人
◇9/7(日)	ステップアップ講座「救急救命講座」	… 19人
◇9/11(木)	9月期理事会	… 17人
◇9/14(日)	第30期自然大学野外実習「琵琶湖の生態」	… 35人
◇9/16(火)	大阪経済法科大学 里山整備	… 11人
◇9/21(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「植物調査」	… 8人
◇9/26(金)	自然と緑の自然観察会「葛城山」	… 26人
◇9/28(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「定例間伐」	… 13人
◇9/28(日)	近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「炭焼活動」	… 3人

——お知らせ——

「NPO 法人自然と緑」では随時、会員を募集しております。ご友人、ご親戚を是非お誘い下さい。ご入会・更新は下記 QR コードをご利用下さい。



★編集雑記

「十一月十二月に公園などで咲く花」をA1に聞いてみました。サザンカ・コウテイダリア・ツワブキ・ジユウガツザクラ・コスモス・エリカ・シクラメン・パンジー・ビオラがありました。コスモスは九月十月が見頃だが十一月中旬まで楽しめるのも含まれているようです。他にもイメージと少し異なるものもあります。地域や気候によっても異なると思われます。徐々に冬が始まり公園で見られる花の数は減りますが、これらの花は、寒い季節でも力強く咲き、公園に彩りを与え、訪れる人々の目を楽しませ、心を温めてくれます。

今年はインフルエンザが例年より早く流行している、と政府・地方自治体が注意を促しています。予防接種も大切ですが、日常生活での、うがい・手洗い・マスク着用で予防に勤めましょう。皆さんも睡眠・体操など個々に独特の予防方法があると思います。寒い季節を力強く楽しく生活し、自然と緑の催し物に元気に参加いただけるよう、お願い致します。

(イチロー)